ここは地と知の拠点。
足利工業大学

日本遺産足利学校のある地で、
実学中心の教育を実践。
工学部、看護学部そして足利短期大学こども学科をもつ
総合大学として知の拠点を目指します。

「地（知）の拠点」として
◎地域に必要な教育研究分野の充実（地域の基盤技術分野、健康長寿分野、子ども・子育て分野）
◎地方創生に必要な地域の産業の発展、高齢化社会への対応、少子化問題への対応

「交流の拠点」として
◎両毛地域の特色・魅力（生産分野や観光サービス分野）の発信と地域活性化
◎アジア・アフリカ諸国の留学生支援と国際貢献の経験
※日本留学アワーズ2014東日本理工系1位

「いのちの拠点」として
◎保健医療に関して地域の健康増進に寄与
◎防災拠点、特に再生可能エネルギーを利用した整備
◎地域の医療機関と連携したボランティア活動の積極化

足利工業大学 工学部 看護学部
〒326-8558 足利市大前町268-1　TEL:0284-62-0605　FAX:0284-62-0976
足利短期大学 こども学科
〒326-0808 栃木県足利市本城3-2120　TEL:0284-21-8242　FAX:0284-21-1270

■工学部　※平成28年度4月に改編
機械分野：機械工学コース/自然エネルギーコース
電気電子分野：電気電子工学コース
システム情報分野：情報デザインコース/人間工学コース
建築・土木分野：建築学コース/土木工学コース
■看護学部

東京電機大学
TOKYO DENKI UNIVERSITY
「実学尊重」
「技術は人なり」

21世紀の科学技術・知性・感性が輝く人類社会を目指して

TDU　東京電機大学　TOKYO DENKI UNIVERSITY

●東京千住キャンパス●
先端科学技術研究科　未来科研究科　工学研究科
未来科学部　工学部　工学部第二部
〒120-8551　東京都足立区千住旭町５番

●埼玉鳩山キャンパス●
先端科学技術研究科　理工学研究科　理工学部
〒350-0394　埼玉県比企郡鳩山町石坂

●千葉ニュータウンキャンパス●
先端科学技術研究科　情報環境学研究科
情報環境学部
〒270-1382　千葉県印西市武西学園台2-1200

技術相談・イベント等お問合せ　■研究推進社会連携センター　産官学交流センター■
〒120-8551　東京都足立区千住旭町5番　電話 03-5284-5225　FAX 03-5284-5242
メールアドレス：crc@jim.dendai.ac.jp　HP：http://web.dendai.ac.jp/tlo/

知の拠点づくりを進める 大学

医療イノベーションの加速に向けて

協議会で仕掛けづくり

大学が産学連携を行う目的は何か。大学独自の自由闊達な研究はイノベーションを起こす源泉といえる。しかし、大学は産業界と直接対峙することでイノベーションの目指すべき方向性や社会的な課題を学ぶことも多い。大学の研究によって生み出された精緻な技術や高度な専門知識は、産学相互の役割分担に基づく協力体制下でこそ発揮し、社会あるいは我々国民へ効果的に還元される。現在、大学で実施される共同研究などの件数は確実に増加し、創出される知的財産の件数は増加傾向にある。しかしながら、実用化に結びついた共同研究や活用に至っていない特許出願は数多く、大学の優れた研究力あるいは英知が存分に生かされているとはいえない現実がある。そのような中、医療イノベーションの創出に向けて、本格的な産学連携を推進する動きが出始めている。

従来、わが国の医薬品・医療機器産業は欧米とともにグローバル競争の中心に位置し、革新的な医薬品・医療機器が持続的に創出されてきた。しかしながら、近年、再生医療や個別化医療などの先進分野の発展といった急速な技術革新の影響もあり、医薬品・医療機器の貿易赤字は拡大している。当該産業が伸び悩む背景には、産学間のスムーズな連携の難しさや、基礎研究から開発のギャップとして表される「死の谷」の存在も大きい。

２０１５年４月１日に発足した「日本医療研究開発機構（ＡＭＥＤ）」は、研究開発の支援や環境整備で政府の司令塔的役割を担う。大学や研究所から創出する医療系の研究成果を効率的に実用化に導くために、政府主導で研究費を一元管理し、基礎研究から応用研究、非臨床、臨床研究・治験、実用化まで横断的な支援が行われることでイノベーション創出の加速が期待されている。

他方、医療系アカデミア発の自発的な取り組みとしては、アカデミア発イノベーションの推進を目指す医学系大学産学連携ネットワーク協議会（ｍｅｄＵ－ｎｅｔ）が発足（**図1、図2**）。同組織は10年6月に文部科学省大学等産学官連携自立化促進プログラム（東京医科歯科大学）の一環で始動したが、13年度からは会員制度を拡充し自立的な活動を開始している。

医療イノベーション創出には莫大な費用と長い時間を要することに加え、複雑なプロセスを要し、特許成立の困難性、契約などの複雑性の存在、レギュラトリーサイエンス（ＲＳ）への配慮が必要となるなど当該分野特有の専門的な知識が不可欠となる。また、産学連携の推進において配慮が必要な契約遵守、法令遵守、利益相反などのリスクマネジメントについて医療分野ではとりわけ慎重な対応が必要となる。

しかし、各大学は当該知識および経験が十分でなく、専門人材などを配置する余裕がない場合も多い。そこで、ｍｅｄＵ－ｎｅｔはネットワーク内に散在する有用なリソース（情報、知識、経験、教育機能、発信機能、人材）を共有する体制を整備し産学連携機能の強化に取り組んでいる。また、わが国唯一の医療系産学連携ネットワークという特徴を生かし、政策提言も積極的に行っている。

活動5年目に入った15年度は、わが国発の医療イノベーション創出に必要な本格的な産学連携を誘因する仕掛け作りにも取り組み、その一つが複数の製薬企業の協力を得て開催する「創薬シーズ相談会」である。製薬企業がネットワークに所属する大学など機関が有する創薬シーズに対して、実用化に向けた研究方針や知財面のアドバイスを実施するものだ。従来の単なる産学連携作りを図るマッチングの枠を超えて、研究者にイノベーション創出に必要な戦略的な研究の視点や実用化への意識を醸成させることで本格的な産学連携を誘導する狙いもある。

昨今の社会環境、技術革新、産業競争の変化は目まぐるしく、新たなイノベーションを構成する技術は複雑化し多様化する傾向にある。現在、解決困難とされている課題の解決や未来社会の創造を導くには、従来の技術領域、産業領域を超えた斬新な発想に加え、産学官が共通の目標の下で一丸となり、真の産学連携活動を展開することがイノベーション結実の要諦といえそうだ。

産学連携学会 理事
東京医科歯科大学
研究・産学連携推進機構 教授
飯田　香緒里

図１ medU-netとは

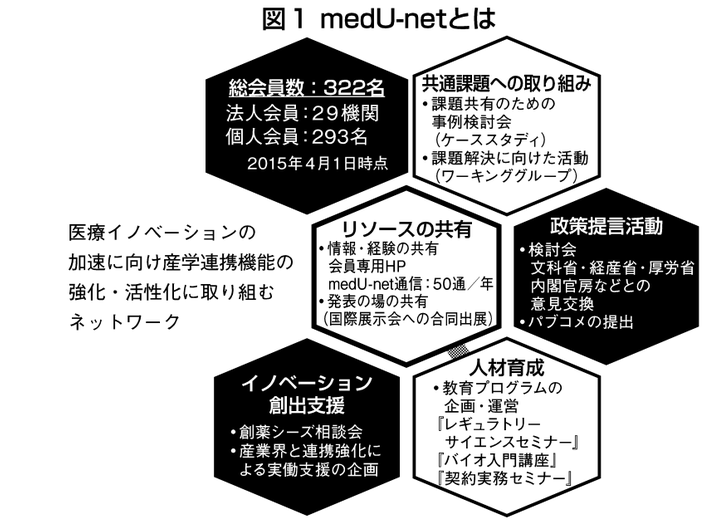
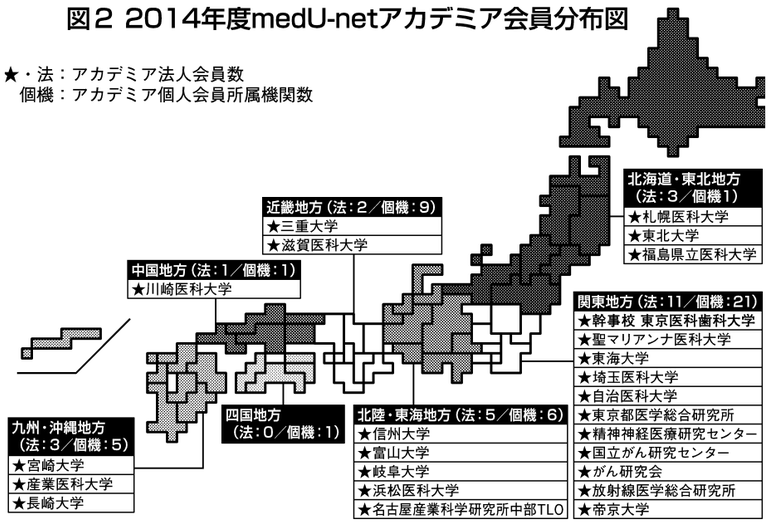


図2 2014年度medU-netアカデミア会員分布図



芝浦工業大学の産学連携

芝浦工業大学では「工学教育」「技術革新を目指す研究」「社会・経済的価値創造（イノベーション）」の
三位一体推進を通して、企業価値創造に貢献いたします。

芝浦工業大学と共に
芝浦工業大学が技術協力をした深海探査機「江戸っ子1号」プロジェクトは2014年度、第12回産学官連携功労者表彰および、海洋立国推進者功労賞において、いずれも内閣総理大臣賞を受賞いたしました。
これからも企業の視点に立った、教員・学生による技術課題の検討と解決手段の研究により、新しい企業価値創造に貢献してまいります。
産学官連携コーディネーターによる技術相談は全て無料となっていますので、まずはお気軽にお問い合わせください。

2014年度 産学官連携活動実績
●受託・共同研究
196件／160百万円
●競争的資金
公的資金の獲得額（科研費を除く）47件／327百万円

芝浦工業大學
SHIBAURA INSTITUTE OF TECHNOLOGY
〒135-8548　東京都江東区豊洲3-7-5　産学官連携・研究支援課
E-mail：sangaku@ow.shibaura-it.ac.jp
TEL：03(5859)7180
担当：篠宮、石井、片野（産学官連携コーディネーター）

神奈川大学は、産官学連携活動を通じて、
より良い社会づくりに積極的に取り組んでいます。

本学との連携をお考えの方は、お気軽にお問い合わせください。

工学部
（横浜キャンパス）
機械工学科
電気電子情報工学科
物質生命化学科
情報システム創成学科
経営工学科
建築学科
総合工学プログラム

理学部
（湘南ひらつかキャンパス）
数理・物理学科
情報科学科
化学科
生物科学科
総合理学プログラム

KU　世界へ、そして未来へ
神奈川大学
http://www.kanagawa-u.ac.jp/
■横浜キャンパス　〒221-8686 横浜市神奈川区六角橋3-27-1
TEL 045-481-5661㈹
■湘南ひらつかキャンパス　〒259-1293 平塚市土屋2946
TEL 0463-59-4111㈹
産官学連携推進課　sankangaku-web@kanagawa-u.ac.jp